



シェイ・ヤマグチの

出合いに

Mahalo

マハロ=感謝の意味 vol.4

原文・和訳
シェイ・ヤマグチ
Shea Yamaguchi

ハワイ州オアフ島出身。
2018年8月から国際交
流員として、浦添市役所
国際交流課に配属。

浦添がもし100人の村だったら

国際交流員として、沖縄とハワイの懸け橋になるよう仕事をしていますが、同時に私は沖縄に住んでいる外国人の一人です。行ったことのない場所に行っても、日本語を使いこなせるからこそ、生活に困ることは少ないです。つまり、外国人でも言葉さえわかれば、困らない程度に生活ができるでしょう。しかし、言葉のわからない外国人住民はどうでしょう。誰かに頼るか、自力で頑張るしかないのでしょうか。

様々な外国人とうちなーんちゅが暮らしている沖縄を見たら、平成13年に広まった「世界がもし100人の村だったら」というチェーンメールを思い出します。タイトル通り、これは全世界を100人の村にした例えです。初めて読んだ時、世界がこんなにはっきり提示されたことにびっくりした反面、世界がどれだけ広いかわかりやすい形にしたことに関心しました。

私は出身がハワイなので、少数派なんてほとんどいませんでした。でも沖縄では、私は本当に少数派の一人です。この感覚がすごく爽快で、多文化共生を推進している沖縄を改めて尊敬してしまいます。なぜなら、この「100人の浦添村」では、JICA沖縄や浦添市国際交流協会のような人たちが我々に世界の広さを教えてくれますから。異文化理解の第一歩は、まず世界の広さを把握し、受け入れることだと思いませんか。

If Urasoe Were a Village of 100 People

As a CIR, I work towards becoming a bridge between Okinawa and Hawaii, but by the same token, I'm also a foreigner living in Okinawa. Despite going to an unfamiliar place, I'm able to get by without too many issues because I can use Japanese. In other words, even foreigners can live here with little trouble as long as they can understand Japanese. But what about other foreign residents without a common language? They would most likely have to rely on someone else or do everything on their own.

Seeing foreign residents of such varying nationalities and backgrounds living among local Uchinanchu reminds me of a chain mail that grew popular in 2001 called "If The World Were a Village of 100 People." Just as the title implies, the text presents the world in the form of a village consisting of 100 vastly different people. When I first read this, I was surprised at the blunt manner in which everything was presented, but I also appreciated seeing diversity in the world scaled down to something I could comprehend.

Coming from Hawaii, where nobody really belongs to a minority, to Okinawa, where I am clearly part of the minority, is almost refreshing. It also helps me to appreciate how Okinawa is taking steps towards multiculturalism. In this "Urasoe Village of 100 People," we have people like JICA Okinawa and Urasoe International Relations Association to open our eyes to the diversity among us. And I think that's the first step towards understanding one another.

皆さまお待ちかねの新しい特産品が誕生します。なんと私たち浦添市でワインを出すことになりました。浦添の桑の実を使ったワインです。その名も「ミユール・ドゥ・ソレイユ」。フランス語で「太陽の桑の実」を意味していますが、ただこのまち浦添市らしい素敵な名前じゃありませんか。

今回、開発・販売に3年をかけた極秘(?)プロジェクト「うらそえワイン製造計画」では、浦添市だけでワインを製造することは難しかったので、北海道池田町の十勝ワインに製造を依頼し、シルバール人材センターの皆さんが育てた桑の実と北海道厚真産ハスカップをブレンドして、コラボで作りました。また、味を最終的に決定する際には、浦添市内のレストランやバー、ワイン販売をしている15人のプロの方にもご協力をいただき、みんなでテイस्टイングをして決定いたしました。また、多くの市民に喜んで手に取っていただけるようにネーミングやラベルもいろいろとオシヤレに工夫しました。愛着を感じていただけるよう浦添八景をデザインに使用しつつ、同時にローカルな安っぽい地

ハイサイ
ミユール・ドゥ・ソレイユ
Mire de Soleil
こちら市長室!



「ミユール・ドゥ・ソレイユ」について詳しくは1,2Pの特集をご覧ください。

場産品とならないように、歴史と伝統の文化都市にふさわしい気品と風格のある落ち着いたラベルとなっています。

しかし、残念なことに桑の実の収穫量との関係で大量製造ができず、今回の一般販売は限定100本のみとなってしまいました。そして、その影響で販売価格もやや高めとなってしまいました。すみません(涙)。でも、逆に希少価値はありますので、毎年、浦添八景を集めてコレクターになるのも悪くありませんね。さあ、いよいよクリスマスイブに市内一斉販売開始です。この冬は大切な人と浦添の桑の実ワイン「ミユール・ドゥ・ソレイユ」で楽しくステキな夜を過ごしてみませんか。それでは良いお年を。あつり乾杯!

浦添市長
松本 哲治



てだっ子 STUDIO スタジオ



ママ
写真撮って〜!
ハイチーズ☆

やまぐち りゅうと
山口 竜叶 ちゃん(1歳 8か月) 城間在



いつもニコニコ
笑顔の瑛菜♥

みやま 瑛菜
宮城 瑛菜 ちゃん(3か月) 沢峯在



いつも
兄弟仲良く
遊んでいます!

れんと
りんと
大城 蓮人 ちゃん(3歳)
琳人 ちゃん(1歳)

「てだっ子 STUDIO」写真募集
●日頃の子どもの写真を郵送または画像データをメールで毎月月末までに送付してください。
※被写体の子どもの氏名(ふりがな)・年齢(0か月、1歳など)・居住地区(安波茶・伊祖など)一言コメントの記入を忘れずに!

〒901-2501 浦添市安波茶 1-1-1
浦添市役所 国際交流課
☎(876) 1234(内線 2613・2614)
E-mail:kohou@city.urasoe.lg.jp



15品目

今話題のさば缶を使用した時短レシピ さばみそ

レシピ提供: いきいき高齢支援課 諸見里 朱子
栄養成分表示(1人あたり)
エネルギー72kcal/たんぱく質5.9g/脂質3.1g/炭水化物5g/食塩0.7g/カルシウム54.5mg

簡単!健康!サッと作れる! サッとごはん

- 材料(4人分)
- さば缶(水煮).....1/2缶(80g~95g)
 - 玉ねぎ.....1/2個(100g)
 - しょうが.....小さじ2
 - 減塩みそ.....大さじ2
 - ※お好みで三つ葉を添える。
- 作り方
- ①さば缶の水気はそのまま。
 - ②玉ねぎはスライスして、水にさらす。その後みじん切り。
 - ③しょうがはみじん切りにする。
 - ④ポウルに減塩みそ、①~③を加えて混ぜて出来上がり。

うめ~しポイント
今、話題のさば缶を使用した認知症予防、カルシウムアップ、血液サラサラになる効果がある「さばみそ」です。とても簡単に作れて冷蔵庫で保存も2~3日できます。おにぎりの具に、ちょっとした一品におすすめです。

いきいき高齢支援課: 諸見里 朱子



問い合わせ 健康づくり課 ☎(内線3660)